

# 令和6年度 椎葉村立松尾小学校 自己評価書

(4段階評価)

4 期待以上

3 ほぼ期待どおり

2 やや期待を下回る

1 改善を要する

## ■ 学校経営ビジョン

「やさしい子ども かしい子ども たくましい子ども 笑顔いっぱい松尾小」

- 1 学校生活（学習）を楽しむ・・・児童が笑顔になり、主体的・対話的で深い学びをしながら、たくましく生きていくための力を身に付けていく学校
- 2 仕事を楽しむ・・・教員が笑顔になり、切磋琢磨しながら「教師力」を向上させることができるチームとしての学校
- 3 協力を楽しんでいただく・・・学校支援体制が確立され、家庭や地域の方々が、笑顔で惜しみなく児童の健全な育成に向け、協力してくださる安心・安全な学校

## ■ 学校の教育目標

「心豊かでたくましく、確かな力を備えた児童の育成」

評価項目	評価指標	具体的数値目標等	方策・手立て	自己評価		結果の考察・分析及び改善策等
				指標別	総合	
子どもの人格や人権を大切にした指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どものよさを見出して称賛の声かけ</li> <li>・保護者と児童のよさの共有</li> <li>○特別支援の視点に立った指導の工夫</li> <li>・ユニバーサルデザインの視点に立った学習環境・指導の工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○称賛の場の設定と保護者への伝達・共有</li> <li>○特別支援教育研修年間3回以上の実施とその実践化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①子どものよさを引き出す学級経営と子どもとの良好な関係づくり</li> <li>②全校朝会等での表彰の場の設定</li> <li>③学級通信・学校通信を通して、児童のよさを保護者に伝達、保護者と共有</li> <li>④特別支援教育研修の計画的実施</li> <li>⑤ユニバーサルデザインの視点に立った学習環境・指導の工夫</li> </ul>	4       3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○委員会活動や係活動など、子どもたちの自主性・主体性が図られる工夫を行った。その結果、責任感が育ち、積極的に活動する姿が見られた。</li> <li>○全校朝会では新聞掲載や健康頑張り週間、作品入選などの表彰の場の設定し、また学級の帰りの会では「今日のキラキラさん」など、お互いのよさを認め合う場を設定したことで、自己肯定感を高めることができた。</li> <li>○学級・学校での子どものがんばりを、学級通信で意識的に保護者に、学校通信で月1回保護者・地域にお知らせしたことで、学級通信・学校通信を子どもたちを称賛する場にすることができた。</li> <li>○特別支援エリアコーディネーターの講義を職員研修に位置づけ、年3回程度実施したことで、教職員の意識は高まり、学習環境の整備や指導の工夫につなげることができた。</li> </ul>
授業の工夫改善（個別最適な学習）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「ひなたの学び」の授業実践</li> <li>・個別最適な学習の在り方の工夫</li> <li>○ICT機器の効果的な活用法の工夫</li> <li>・目的に合った機器の</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全学年、単元テスト学級平均85点以上の達成</li> <li>○授業におけるICT機器の積極的活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「ひなたの学び」の視点にたった研究授業の計画的な実施</li> <li>②個別最適な学習や宿題の見届けによる確かな学力の定着</li> <li>③自分の思いを伝える場の設定と授業の工夫</li> <li>④キュビナやロイロノートなどの学</li> </ul>	3       4	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習指導案を書く授業を一人2回実施する予定（既に1回は実施済み）があり、教師の授業力を高めることにつながった。</li> <li>○どの学年においても単元テストの学級平均は85点以上であり、個人差はあるものの、学力の定着が図られている。</li> <li>○集会活動や学校行事、授業において、自分の思</li> </ul>

	利用		習アプリの効果的な活用 ⑤教師のＩＣＴ活用スキルを高めるための研修の実施			いを伝える場の工夫を行ったり、学び合いの場をつくったりしたことで、「ひなたの学び」の具現化を図ることができた。 ○授業の後半にキュビナを活用したり、表現活動でロイロノートを活用したりしたことで、個別最適な学びが実現できた。 ○県教委や村教委が主催するＩＣＴ研修会に全職員積極的に参加したことで、教職員のＩＣＴ活用スキルが高まった。
保護者・地域との連携	○学校運営協議会の充実 ○創立１５０周年の実施	○年間３回の学校運営協議会の計画的実施 ○創立１５０周年の地域からの参加１００人	①学校運営協議会の実施内容の工夫・改善 ②創立１５０周年実行委員会の計画的・効率的な運営 ③創立１５０周年にむけた地域への確実な連絡と実施	3  4	3	○学校運営協議会では授業参観を毎回位置づけ、学習の様子を見ていただいた。第２回は全職員と委員との熟議を予定していたが、多くの委員の方の御都合が悪くなったため、延期した会では全職員との熟議を行うことができなかった。次年度は全職員との熟議の場を設定したい。 ○月１回の創立１５０周年実行委員会を保護者や公民館などの御協力のもと、計画的に実施することができた。 ○回覧板や村内放送を有効に活用し、また組合長の御協力のおかげで、全体で２００名あまりの参加の記念祭を行うことができた。当日の運営もスムーズで、地域の方々の評価も高かった。
ふるさとを愛する心の育成	○椎葉村学の実環境整備 ○ユニット学習の工夫・改善	○椎葉村学も含めた地域学習の計画的な実施 ○大河内小学校とのユニット学習を週１回実施	①伝統文化学習、地域との交流学習の充実・改善 ・椎葉村学、大いちょう太鼓、網投げ踊り、地区合同運動会、餅つき大会、保育所との交流、駒打ち体験、グラウンドゴルフ、大いちょう遠足、八村杉・太久保のヒノキ遠足、スキー遠足 ②ユニット学習のためのスムーズな機器の接続（ＺＯＯＭを使った双方向の授業） ③ユニット学習を効果的に行うための指導の工夫・改善	4  3	3	○地域のことを知り、地域の方々と接する機会を多く作ったことで、子どもたちの松尾地区への愛着を深めることができた。特に、１５０周年記念祭での劇などの発表で地域の方から得た高い評価は、子どもたちの大きな自信につながった。 ○大河内小は１２年生がいないため、本校１２年のユニット学習は深めることができなかった。次年度は、本校が主導して大河内小とのユニット学習を進めていくことになる。よりスムーズに接続環境が整えられるようにしていきたい。 ○３年生以上については、ユニット学習にも慣れ、そのよさを生かした学習活動が展開できた。指導方法の工夫については、まだまだ課題も多いので、今後、研修を行っていく。